

# 令和元年度第 1 回北海道アルコール健康障害対策推進会議における 各構成機関からの意見について

## 議題（１）北海道アルコール健康障害対策推進会議設置要綱及び

### 北海道アルコール健康障害対策推進会議「計画部会」設置要綱の改正について

提出機関	意見	対応
	意見なし	

## 議題（２）重点目標及び取組の状況について

提出機関	施策	具体的な取組	左記取組への意見	対応
依存症治療拠点 機関(旭山病院)	一次予防 (1)	・学校教育においては、引き 続き、飲酒が心身に及ぼす 影響等を正しく理解させ、 適切な意志決定や行動選択 ができるよう教育を実施し ます。	・一次予防の学校教育における 部分で児童、生徒への説明に関 しての文言はあるが、教師に研 修会などを通じて正しい知識を 普及啓発する必要があるのでは ないか。	・依存症に関する リーフレットを研 修会等で配布し、 正しい知識を普及 啓発しています。
	一次予防 (1)	・母子手帳交付時等におい て、市町村と連携し、飲酒の 有無の確認や飲酒が自分自 身や胎児・乳児に及ぼすリ スクについて説明し、妊娠 中や授乳期間の禁酒につい ての保健指導が行われるよ う促します。	・妊娠中のアルコールに関する 指導の中で保健師等に産婦人科 医、小児科医を含ませ、胎児性ア ルコール症候群について伝え、 様々な支援者から家族全体に説 明する必要があるのではないか	・産婦人科医、小児 科医等にも依存症 支援者研修の周知 を行います。
			・退職後に飲酒問題が著明にな る方もいるため、定年前の老後 の生き方講習会など今ある枠組 みの中に依存症の啓発も含めた 話ができるといいのではないか	・構成機関や講習 会を実施する各関 係機関と連携し、 取組方法を検討し ます。
	二次予防 (1)	・健康診断や保健指導に従 事する者が、問題飲酒はあ るがアルコール依存症まで には至っていないと判断さ れた者に対し、適切な減酒 支援（ブリーフインターベ ンション）等を実施できる よう、国の研究成果を踏ま え、研修会を通じて人材育 成を行います。	・減酒支援（Brief Inter vention)の対象にかかりつけ医、 産業医等に外来Ns など医者以 外の対象を含めて介入できる人 を増やした方がいいのではない か	・研修参加者には、 看護師など医者以 外の方の参加も頂 いているところで あり、引き続き減 酒支援ができる人 材育成を図りま す。

提出機関	施策	具体的な取組	左記取組内容への意見	対応
	二次予防 (3)	・ 飲酒運転で検挙された道内居住の違反者に対して送付する「行政処分関係書類」に保健指導を勧奨する文書を同封し、保健指導を実施します。	・ 福岡県の条例では飲酒運転での違反者に対して受診義務、依存症と診断された時の治療義務が定められている。同様に、北海道でも受診の義務化を図れないか	・ 他都府県の状況等を調査し、検討します。 ・ 道条例所管の環境生活課と協議します。
	三次予防 (1)	・ 自助グループの活動や回復施設等の取組について関係機関の間で情報を共有し、相談者が適切な支援につながるよう情報提供を行い、自助グループ及び回復施設の活用につなげます。	・ 北海道という公的な場で、日替わりで自助グループを開催する場を準備できないか。 準備することで会場費で困窮していたり、自助グループが立ちいかなくなっているところへの支援とならないか。	・ ニーズに応じ、道立精神保健福祉センター、各道立保健所等の会場の提供を行うこともあります。

北海道精神保健福祉士協会	一次予防 (1)	・アルコール関連問題啓発週間(11月10日～16日)において、自助グループや各種団体等を通じて、飲酒に伴うリスクや男性、女性それぞれの適度な飲酒に関する正しい知識、アルコール依存症の初期症状等について普及啓発を図ります。	毎年、道庁1階ホールを活用しての普及啓発活動を行っていますが、対象者はどのように考えているのか。 一般道民が道庁を訪問する機会はそれほど多くないと推測でき、一般道民が自然と目にとめる機会が多い場所や通る場所を活用することは困難か。 例えば、道庁本庁舎近くであれば、「かでる」のホールやJR札幌駅、バスターミナル等の待合室、ショッピングセンター等のホール、ロビーなどが活用できると効果的かと考える。	・各施設の使用の可否等を含め、検討します。
提出機関	施策	具体的な取組	左記取組内容への意見	対応
北海道作業療法士会	二次予防 (2)	・アルコール依存症が疑われる者を適切な治療に結び付けるため、内科等のかかりつけ医や産業医等に対して、早期介入の手法を含むアルコール依存症等の研修を実施します。	・「アルコール健康障害に係る医療の質の向上」について、R2年度の医師等に含まれる対象はどの範囲でしょうか。	・精神科医や産業医、看護職、作業療法士、精神保健福祉士、公認心理師などの医療関係者が含まれます。
			・アルコール健康障害の対策には人材育成が欠かせません。作業療法士を例にとると、養成教育や日本作業療法士協会等の卒後研修制度で依存症に関する教育を行っているものの、その充実が課題となっております。 例えば、上記質問で挙げた資料4の二次予防(2)医療の充実等の「アルコール健康障害に係る医療の質の向上」に関して、コメディカル職種も含めた研修の充実を明記し、幅広い人材の育成について充実を図るのはいか	・今後の計画において、コメディカル職種も対象であることを明記することとします。

			がでしょうか。	
			・次期計画に関する国の検討内容の進捗について、今後の検討のため、北海道で把握しているものがあれば情報提供していただきたいと思います。	・国の検討内容の進捗については、今後積極的に情報提供していきます。
北海道アルネット	二次予防 (2)	・アルコール依存症が疑われる者を適切な治療に結び付けるため、内科等のかかりつけ医や産業医等に対して、早期介入の手法を含むアルコール依存症等の研修を実施します。	①「SBIRTS」の研修会 重点目標:かかりつけ医、一般内科などからの依存症患者の早期介入・依存症専門機関への導入を普及 取り組み:かかりつけ医や保健所、民生委員などを対象にしたSBIRTS研修会(2月に断酒会などが主催で行われたなど例えば断酒会などの自助グループと協働で行うなど)	・今後の第2期計画策定の際にSBIRTS研修会の実施について、検討します。
	二次予防 (2)	・アルコール依存症が疑われる者を適切な治療に結び付けるため、内科等のかかりつけ医や産業医等に対して、早期介入の手法を含むアルコール依存症等の研修を実施します。	②「飲酒運転などをしたものに対する指導」という欄がありますが、その取り組みの部分で、講習を実施までにとどまっているので、「専門医療機関の紹介とか、地域自助グループへの紹介、講習の中で酒害体験談を聞いてもらう」などを加える。	・今後の第2期計画策定の際に文言の追記を検討します。
提出機関	施策	具体的な取組	左記取組内容への意見	対応
	一次予防 (1)	・学校教育においては、引き続き、飲酒が心身に及ぼす影響等を正しく理解させ、適切な意志決定や行動選択ができるよう教育を実施します。	③学校に断酒会員をよんで、例年学生・先生対象に体験談の場を提供されている学校があるが、教育庁の未成年啓発の欄にもそのような酒害体験とか、ダメ絶対ではない、関わり方の研修会などを加えるのはどうか。	・教育庁と協議します。

	二次予防 (3)	<p>・保健所、市町村等が開催する地域ケア会議や要保護児童対策地域協議会等の事例検討においては、暴力、虐待等の問題がある場合、不適切な飲酒の有無やアルコール依存症への対応についても検討し、必要に応じて関係機関と連携し支援を行います。</p> <p>・</p>	<p>④「高齢者のアルコール問題について」</p> <p>平成 17 年、関西アルコール関連問題学会が居宅介護現場の従事者へアンケート調査をしたところ、「飲酒問題の為にサービスが困難になった経験」について約 32%が「ある」と回答しており、飲酒問題と言っても習慣的に飲酒している方ばかりではないと考えられる。</p> <p>依存症かどうかはともかく“アルコール関連問題”と捉え、介護現場のアルコール問題について、道の計画でもその対策を講じる必要があるのではと考える。</p> <p>認知症の程度にもよるが、いわゆる ARP と呼ばれる本人の断酒意志を前提とし、一定の理解力を要する心理教育をベースにした依存症専門治療では対応は困難である場合も多い。</p> <p>介護現場のスタッフ（ケアマネ、介護、訪問看護、民生委員、家族等）に向けた研修等について取組があってもいいのではと考えます。</p>	<p>・介護現場のアルコール問題について、今後の検討課題の一つとします。</p> <p>・道主催の支援者研修において、周知を図り、介護現場のスタッフの参加を更に促します。</p> <p>・また、介護現場のスタッフ向けの研修については、関係機関等と連携を検討します。</p>
--	-------------	---	---	--

## 議題（3）今後の進め方について

提出機関	意見	対応
	<div data-bbox="470 1518 1002 1675" style="border: 1px solid black; padding: 20px; text-align: center;">           意見なし         </div>	

その他意見

提出機関	意見	対応
北海道精神神経科 診療所協会	<p>アルコールと薬の服用が合わさると、その薬の効果持続時間、代謝などに様々な弊害が起きる。</p> <p>「薬と一緒にのまない」ということを「アルコールで薬を流し込まなければ大丈夫」と勘違いしている人も多い。飲酒の影響下で睡眠薬を服用し、「知らない間に店の物を持ってきてしまった」「身に覚えのないメールを送った」「車を運転して事故になった」といったことも起きている。このような危険について道民にわかりやすく広報したほうがよい。</p>	<p>・取組について今後、検討します。</p>